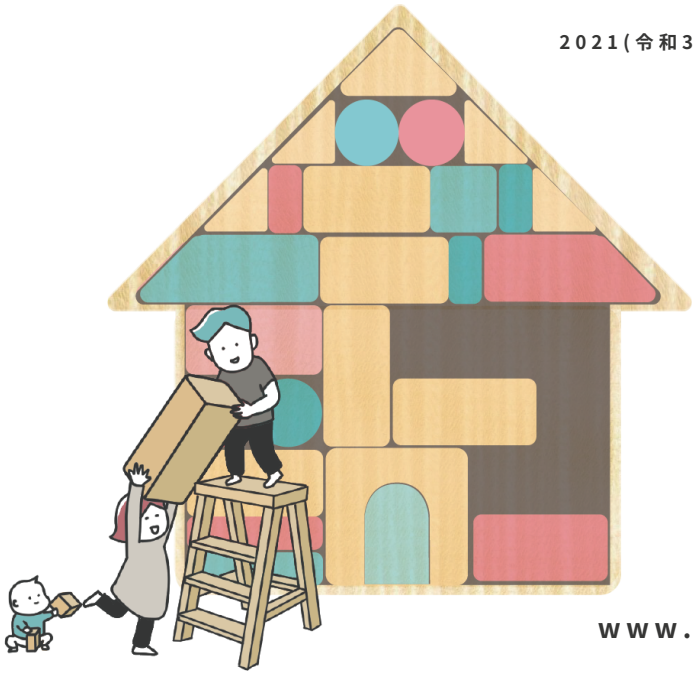
2021.10 - 2022.09

ANNUAL REPORT

認定NPO法人マドレボニータ
年次報告書

2021(令和3)年10月-2022(令和4)年9月



www.madrebonita.com

ご挨拶

2022年11月 新公益連盟合宿@奈良にて

中桐昌子
共同代表理事長

日頃よりマドレボニータを応援くださり、ありがとうございます。

感染症の影響が長期化する中、マドレボニータでは“コロナ禍における産後の心身とパートナーシップ”について実態調査を行い、その結果を『産後白書4』として2022年1月に発表しました。産後女性の2人に1人が「産後うつ寸前」～「産後うつ」を自覚している現状や、実家に頼ることなく、自宅で産後を過ごすカップルが増えている実態が明らかに。コロナ禍において産後家庭の孤立化はより顕著となっていること、だからこそ、産後女性のみならず、男性やパートナーを含めたケアが必要であることを再認識しました。

産後が起点となる社会問題が解決されない限り、私たちの社会的ミッションは続きます。「すべての家族に産後ケア」を実現するため、全国47都道府県に『産後白書4』を届け、夫婦で、家族で、そして地域社会全体で取り組む産後ケアの提言を行ってまいります。こうした全国的な働きかけはマドレボニータとしても初めての挑戦になります。みなさまの地域でも、「取り組む産後ケア」が当たり前の社会になるよう、ともに働きかけをしていけたらと思います。引き続きのご声援をどうぞよろしくお願いいたします。

山本裕子
共同代表理事長

いつもあたたかいご支援ありがとうございます。新体制3年目となる今期は、無事に第二期をスタートさせることができました。これもひとえに私たちの活動を応援してくださり、たくさんのご縁を繋いでくださるみなさんのおかげです。そしてみなさんからいただく思いは新たな言動力となり、団体をもっと良くしていこうとする力、現場で多くの妊娠中や産後のみなさんに丁寧に産後ケアを伝えていこうとする力となっています。改めて御礼を申し上げます。

1年目は右も左もわからず、ただがむしゃらに走ってきました。2年目になると、少しずつ地に足がついてきて、少しずつ自分の中に理事としての自覚が芽生えてきて、内部での対話もどんどん深まっていくことを感じました。その中では、時にぶつかることもありましたが、それが血肉となり、3年目に入った今、小さな自信とワクワク感に変わってきています。コロナ禍もまもなく丸3年。もうコロナ前の生活が戻ってくることは想像ができなくなりました。が、この状況下で少しでも健やかに子育てをスタートできる家族を増やすために、変化を恐れず、創造性を発揮しながら前に進みたいと思います。ぜひ一緒に未来を作っていきましょう！

2021年度も皆さまのご支援にて、たくさんの家族に産後ケアを届けることができました

教室事業

教室プログラム
詳細はこちら

現場からの
メッセージ

宮澤千尋
教室事業部担当

孤立しやすいコロナ禍こそ多様な産後ケアプログラムを

今年度はインストラクターが増えたことにより、産後ケア教室の開催数、受講者数ともに増加。現場でご受講者の声を聞くにつれ、コロナ禍だからこそ家族以外の大人と安心安全に関われる場をなくしてはいけないと強く感じています。

また、新たにスタートしたオンライン両親学級は、48組のカップルに受講していただくことができました。「産後」に向けて妊娠中からカップルで準備ができるよう、withコロナ時代にどんな時でも産後ケアをお届けできるよう、対面教室、オンライン教室共に、引き続きブラッシュアップをしながら今後も開催してまいります。

2022年11月の任期満了をもって理事を退任いたしましたが、引き続き教室事業部の一員として、安心安全な教室運営、継続的な産後ケア支援が行えるよう、努めてまいります。

1,581組に
産後ケアを届けました

対面プログラム
1,251組

産後ケア教室	689組
産後のバランスボール	75組
その他の単発	487組

オンラインプログラム
330組

産前・産後4回コース講座	195組
産前・産後単発講座	60組
オンライン両親学級	75組

主なプログラムの前年度比

インストラクターが増え、産後ケア教室の開催数、受講者数ともに増加。
オンラインよりも対面教室を希望する声が多く届くようになりました。

	年度	開催数	受講者数	満席率
産後ケア教室（4回コース）	2021（令和3）年度	179	689	49.8%
	2020（令和2）年度	115	495	66.2%
産後のバランスボール教室	2021（令和3）年度	32	75	28.8%
	2020（令和2）年度	31	98	34.5%
オンライン講座（4回コース）	2020（令和2）年度	51	195	40.0%
	2020（令和2）年度	133	833	77.1%

コロナ禍での特別プログラム提供

対面教室も徐々に再開してきたものの、コロナ禍でこの1年も状況は刻一刻と変化してきました。特にお子さんを抱えている方は小さな命を守るために毎日必死な思いで過ごされてきたと思います。

そんな母たちに私たちマドレボニータができることと言えば、カラダを動かしたり、家族以外の人との交流を持つ機会を提供することしかありません。今年度も昨年に引き続き、日本財団様の助成による産後ケアプログラムの受講料補助を実施しました。

緊急事態だからこそ、大切な家族を守っていくためのセルフケアを、今まで以上に丁寧に届けたい。そんな思いから、2022年2月には限定企画として、認定インストラクターがそれぞれの得意分野を持ち寄り、合計40種類の特別プログラムを実施。240組の方にプログラムを届けることができました。
（受講料補助は2022年2月にて終了しました）

教室事業

オンライン両親学級の詳細はこちら

マドレ式オンライン両親学級

2021年7月からスタートしたマドレ式オンライン両親学級は、毎月1回、定員5組、共同代表の山本と中桐のバースデードネーションによる受講料補助で開催を続けています。今年度はカップルでのご受講も増えました。

オンライン両親学級 ご参加者の声

●参加したきっかけ

私は今年第一子が生まれ、産褥期を何とか乗り切れた新米パパです。所属企業がマドレボニータさん（以下、マドレ）とタイアップして社員＋家族向けに両親学級を毎年定期開催しており、偶然見つけて参加しました。

●両親学級に参加して感じたこと

①夫婦一緒に育児に備える機会の重要性

コロナ禍で自治体主催の両親学級が開催されず、夫婦そろって参加できる両親学級はほぼありませんでした。そんな中、オンラインで場所を選ばずに開催されているマドレの両親学級はとても貴重でした。

②産前・産後のトータル支援体制の必要性

産褥期にいかに母体を回復させるのか、そのために家庭内に閉じず、必要であれば支援サービスを活用することの重要性等を理解できました。マドレは行政による産後ケアを上手く補完する形で産後ケアにも注力しており、両親学級に参加することで幅広い支援を出産前に情報収集することが出来た点はとても助かりました。

（2022年3月参加　長谷川弘一さま）

産後ケアバトン制度

2021年度はlululemon様、日本労働組合総連合会様の愛のカンパ助成にてご利用者の受け入れができました。2022年度より産後ケアバトン制度の改定を行ったことに伴い、より多くの家族へ産後ケアをお届けすることと、産後ケアの「バトン」を繋ぐための取り組みに力を入れていく予定です。

産後ケアバトン制度の詳細はこちら

提供実績

今年度支援組数　46組
（うち介助ボランティアあり）（20組）

累計支援組数
1,277 組

事由の内訳

多胎児の母	ひとり親	障がいのある児の母	早産児の母	児が入院した母	産前入院した母
27組	5組	1組	5組	3組	5組

産後ケアバトン制度 ご利用者の声

「人生を変える1日になりました」

産後ケア教室の第3週目、なんとかスタジオ近くの駐車場に車を停めることはできましたが、外は土砂降り。ほんの少しの距離だけれど、双子を連れて向かうことが怖くて、無力感で泣きそうになりながら「帰ろう」と思いました。

電話でインストラクターにそのことを伝えると「本当に帰りたい気持ちならばいいけれど、もし参加したいなという気持ちがあるのなら、駐車場までお迎えに行くよ？わたしも介助ボランティアさんも会えたら嬉しいから、遠慮せずに頼ってね。」と言っていただき、かなり迷いましたが迎えに来てもらうことにしました。

結果、帰らずに助けてもらって参加することができて本当に良かったです。
「お母さん1人で頑張ったよ！」じゃなくて「たくさんの人に抱っこされて、助けてもらって大きくなったんだよ。たくさん助けてもらって、自分も誰かを助けてあげてね。」って子どもたちに伝えてあげたいです。

（和光市教室2022年7月コース参加　多胎児の母より）

教室事業

法人向け
サービスの
詳細はこちら

企業との取り組み

マドレボニータでは、企業における女性活躍やダイバーシティ推進のため、復職支援プログラムの提案、提供を行っております。復職支援プログラムは2つの柱で実施しており、一つ目が産む前に当事者を含めた社員に向けて産後ケアの必要性と重要性について知っていただく「産前講座」。二つ目が実際に社員の方やその配偶者に適切な産後ケアの機会を提供する「産後ケア教室受講料補助」となっております。2021年度は、産前講座の新たな実施が2社、そして9月にはナイキジャパン様社内イベントにも登壇いたしました。「産後ケア教室」受講促進としての社員向け受講料補助制度の導入は、昨年同様2社にご活用いただき、ほとんどがオンライン教室へのご参加でした。

企業向け「産前講座」導入社数

- 集合研修型 **4社**
- オンライン視聴型 **1社**

「産後ケア教室」受講促進（社員向け受講料補助制度）

- 法人数 **2社**
- 受講者数 **14名**

ナイキ ジャパン様社内イベント登壇

2022年9月、「ナイキ（NIKE）」初のマタニティーコレクション“ナイキ（M）”の日本リリース記念社内イベントにお招きいただき、産前・妊娠期・産後における心と体への向き合い方やエクササイズについてお話させていただきました。「マタニティ期や産後にある固定概念をとっぱらい、自分らしさを大切にする。」というブランドメッセージに、産前産後という、人生の大きな転換期においても、自分の体と心に向き合い、ケアすることで、誰もが持っている本来の力を発揮できる社会の実現を目指すマドレボニータの理念との重なりをも感じ、ここからまた新しい文化が形創られていく可能性に心が震えるようでした。（共同代表　中桐昌子）

自治体との取り組み

以下の自治体にて対面講座・オンライン講座・動画提供を行ないました。

- 北海道厚岸町（対面／オンライン）
- 北海道妹背牛町
- 北海道美幌町
- 栃木県宇都宮市
- 東京都北区（動画）
- 神奈川県鎌倉市
- 神奈川県横浜市
- 岐阜県山県市
- 愛知県名古屋市

養成事業

養成スクール
詳細はこちら

現場からの
メッセージ

長野奈美
理事・
養成事業部担当

産後の担い手の裾野を広げる養成スクール

2020年度よりスタートした「新しい養成スクール」は3期開催し、29名の産後セルフケアアドバイザー、１名の産後セルフケア指導士が誕生しています。

現在4期目の開講に向けて準備していますが、興味を持ってくださる方が、助産師、看護師、子育て支援員などの職業として産後の方に関わる方だけではなく、産後のただ中にいる育休中の方が増えている、という印象です。自身の産後に、マドレの産後ケアプログラムに出会い、その経験を周りの人に伝えていくための知識とスキルを得たいというニーズが確かにある、と感じています。

2年前開講当初に思い描いていた「一般の市民が産後の担い手になるためのスクール」が少しずつ形になってきている手応えを得られています。

5月には職業人としての産後の担い手「産後セルフケアインストラクター」コースも開講予定です。
さまざまな形で、産後ケアを広げる仲間を増やしていけるよう、取り組んでいきます。

養成スクール2期

2022年1〜3月（3カ月）隔週土曜に開催した養成スクール2期では、11名がコースを修了し、産後セルフケアアドバイザーとして北は北海道から、西は大阪まで各地で活動されています。保健師、小学校教諭、鍼灸師、会社経営者など、産後女性、または育児中の女性と接点がある方が多数参加してくださっています。
1講座から参加OKの単発受講生も募集したところ、のべ47名の参加がありました。会員・OGさんで組織している「マドレ式対話の場づくり研究所」の皆さんや、インストラクターのブラッシュアップの場としても活用していただくことができました。

養成スクール3期

9月に開講した3期は、知識を学ぶベーシックコース3講座、実践編のアドバンスコース4講座という2階建て構造にしました。これまでの経験から「純粋に学びたい人」と「講座を開催したい」という人の2パターンのニーズがあるのを感じており、気軽に参加できるコース、がっつり実践練習にも取り組むコースとに分けました。その結果、ベーシックコースにはスクール初となる男性２名が参加してくださいました。広島県の自治体の市議さんも参加してくださり、子育て政策にどう生かしていったらいいのか、と産後が起点となる社会問題について学び合ったり、意見交換をすることができました。また、平日の日中に開催することによって、産後1年未満の育休中の方などの参加も増えました。

あたらしい養成スクール修了者数

1期（前期） 2021.1〜3	1期（後期） 2021.5〜12	2期 2022.1〜3	3期 2022.9〜12	合計 2021.1〜2022.12
産後セルフケア 指導士1名 産後セルフケア アドバイザー10名	産後セルフケア インストラクター4名 ボールエクササイズ 指導士1名	産後セルフケア アドバイザー11名	産後セルフケア アドバイザー8名	産後セルフケア指導士1名 産後セルフケアアドバイザー29名 産後セルフケアインストラクター4名 ボールエクササイズ指導士1名

研究開発事業

『産後白書4』
詳細はこちら

『産後白書4』完成

『産後白書1』の発行から13年。コロナ禍での産後女性とそのパートナー654名を対象に、産後の心・体・パートナーシップについての実態調査を実施し、その結果をまとめた『産後白書4』が2022年1月に完成。まさに「コロナ禍の産後のリアル」がつまった一冊となりました。より多くの方に読んでいただきたいという想いから無料WEB公開し、2023年1月10日時点で閲覧数5,440件となっております。

発行記念イベント開催

2022年1月の記念オンラインイベントは82名が参加。共同研究者の荒木さん、野村さんと、前田晃平さん（当時は認定NPO法人フローレンス代表室長で現在は内閣官房こども家庭庁設立準備室参事官補佐を担当）にご登壇いただきました。

クラウドファンディング実施

『産後白書4』発行後、産後の心身の実態、そしてコロナ禍における産後期の夫婦関係の実態に、産前・産後の当事者のみならず、広く共感や驚きにも似た声が寄せられました。反響を受け、当初はWEB版のみの発行を予定しておりましたが「より多くの方に、できれば全国のみなさまに手に取っていただきたい！」という思いのもと、クラウドファンディングに挑戦。345名もの方から、総額 1,846,060円のご支援をいただきました。寄付を通してのご支援や応援メッセージ、情報シェアなど、皆さまの熱い温かい応援にあらためて感謝を申し上げます。
皆さまからのご支援をもとに、印刷・書籍化し、47都道府県2,400カ所にのぼる自治体へ10月に送付しました。過去にも各地の自治体との協働実績はあるものの、このように全国に一斉展開したのはマドレボニータとしても初めての取り組みとなります。新年度では本書を通して「夫婦のための産後ケア」の啓発、提案を行ってまいります。

現場からのメッセージ

新井和奈
理事・
自治体協働担当

『産後白書4』をきっかけにより多くの方へ産後ケアを

クラウドファンディング「『産後白書4』を47都道府県へ届けて 夫婦のための産後ケアを実現したい」にて345名の方からいただいたご支援をもとに2400カ所の自治体に送付した『産後白書4』。各施設に一部置いていもらうだけでなく、自治体で配りたい、白書のデータを活用したいとご連絡いただくことも。沖縄市では、こんにちは赤ちゃん訪問の際の配布資料の一部として産後白書4のチラシを配布が決定しました（出生1500人/年）。これからも市区町村との繋がりを地道に築いていきます。
また養成スクール卒業生や地域で産後ケアの活動をされている方と繋がり、インスタライブで産後白書を語るなど、それぞれが知恵を出し合い、全国に広げるため行動に移しています。

2021年度調査研究事業は公益信託 オラクル有志の会 ボランティア基金・日本財団・みてね基金の助成を受けて実施しました。

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION　みてね基金

調査研究『コロナ禍におけるパートナーシップ』関連情報

『コロナ禍におけるパートナーシップ』の調査研究において、研究協力をいただいたお二人がそれぞれ 「学会での優秀演題賞を受賞」 「論文の出版 」という快挙を達成されました。

日本女性心身医学会学術集会にて優秀演題賞を受賞

2022年8月27日・28日に開催された日本女性心身医学会学術集会にて、大阪行岡医療大学の荒木智子さんがIPV陽性（DV陽性）と健康状態に関する発表をされ、31演題中、ノミネートが５演題という中から見事、優秀演題賞を受賞されました！
https://www.procomu.jp/jspog2022/index.html

日本人女性の産後の身体活動に関する報告で初となる英語論文

千葉工業大学の野村由実さんが、コロナ禍の産後女性の身体活動の実態と関連要因を調べた論文が出版されました！ 日本人女性の産後の身体活動に関する報告は少なく、英語論文では初となるそうです。
＜論文タイトル＞
Factors influencing physical activity in postpartum women during the COVID-19 pandemic: a cross-sectional survey in Japan

以下リンクよりフリーでご覧いただけます。 是非ご一読ください。
https://bmcwomenshealth.biomedcentral.com/articles/10.1186/s12905-022-01959-9

コミュニティ・組織運営

現場からのメッセージ

永野間かおり
理事・
組織運営担当

団体の経営視点強化のため理事会の構成に関して、「外部理事や男性の視点も必要では？」という会員の皆様からのご意見を反映し、2021年に理事3名で参加した、企業やNPOの経営者が、社会課題解決事業の経営について議論と協働を行う実践プログラムでご一緒した弁護士の根本剛史さんを、新たな監事にお迎えしました。

また、経営や事業計画について、他団体や企業勤務の外部の方々に相談し、客観性と専門性を活かした問いやご助言をいただくアドバイザリーボードミーティングを定期的に実施しました。人権・ハラスメント対策では相談窓口フォームを教室・養成スクール受講者など外部にも開き、対策の一連の取り組みを他団体との勉強会でも発信しました。

健全な経営・運営体制と、お互いを尊重する文化醸成を、制度・仕組み・対話などのさまざまな角度から今後も推進していきます。

マドレジャーナル

会報誌「マドレジャーナル」は従来紙の冊子で発行していましたが、2020年よりWEBでの発行となりました。正会員の皆さまや会員チームの皆さまが、産後ケアやコミュニティでの活動や知見を公開できるメディアです。2022年度はWEB版第3号を発行したほか、過去に発行した冊子をデジタルアーカイブ化し、正会員・法人会員が自由に閲覧できるようになりました。

第3号　マドレ式 事業承継の奇跡（軌跡）
～『今すぐ事業承継したい』人も『いずれは事業承継を…』な人も～
（2022年4月発行）

創業者吉岡から新代表にバトンが渡されて1年、モデレーターにマドレボニータ監事の岡本拓也さんをお迎えして開催したトークセッションの当日の様子を詳しくお伝えします。

マドレジャーナル
詳細はこちら

人権・ハラスメント対策

2022年の1月、6月には外部の人権・ハラスメント対策をテーマにしたイベントや報告会に登壇し、マドレボニータが人権・ハラスメント対策に取り組んだ経緯や、予防・対応・啓発と周知の一連の取り組みを報告しました。
この春から中小企業でもハラスメント対策が法制化され、NPO/NGOも例外ではありません。ですが、多くのハラスメントは組織内部で起こるデリケートなものであり、対策に乗り出す初期設定でつまづき困難を感じる団体も多いのが実情です。そこで、法律や外部の指標評価も基に、会員さんや弁護士のかた、外部アドバイザーの協力のもと、団体内でのアンケート実施や対話により、早い時期から人権ハラスメント対策に着手してきたことで、マドレボニータ登壇の機会をいただくようになりました。

2022/1/11　SRセミナー2021 第4回「NPO/NGOにおけるハラスメントへの対応をどう進めるか？」
（主催：社会的責任向上のためのNPO/NGOネットワーク）
2022/6/30　「NPO・ボランティア団体など社会課題に取り組む団体におけるハラスメント対応に関する調査 経過報告会」
（主催：特定非営利活動法人 mia forza）

グッドガバナンス認証を取得

2022年1月、マドレボニータは公益財団法人 日本非営利組織評価センターのグッドガバナンス認証を取得しました。グッドガバナンス認証は、市民参加の度合い、環境への配慮、財務・会計、社会への情報発信など組織運営に関わる27の評価基準を書面と訪問で審査。さらに外部の有識者から成るグッドガバナンス認証審査委員会の審議を経て認証されます。企業や行政などが非営利組織と連携するときの一つの信頼性の指標として、一定水準以上の組織運営能力が認証されます。

グッドガバナンス認証

インストラクター

プロフィール
詳細はこちら ▶

平野 聡恵
北見教室（北海道）
BLOG

永野間 かおり
札幌教室（北海道）／オンライン教室
2020年よりマドレボニータ理事
WEBSITE

小嶋 千恵
宇都宮教室／さくら教室（栃木）
BLOG

竹原 瑠衣
船橋駅前教室（千葉）／流山教室（千葉）／
月島教室（東京）／オンライン教室
WEBSITE

新井 和奈
オンライン教室
2022年よりマドレボニータ理事
BLOG

桐原 沙織
大宮教室（埼玉）／赤羽教室（東京）／
オンライン教室
BLOG

井端 梓
武蔵小杉教室（神奈川）／
中目黒教室／四ツ谷教室（東京）
WEBSITE

吉田 紫磨子
吉祥寺教室（東京）／
池袋教室（現在休講中）
WEBSITE

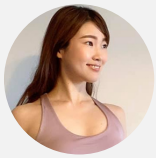
宮澤 千尋
和光市教室（埼玉）／表参道教室／
大泉学園教室（東京）／オンライン教室
WEBSITE

貫名 友理
三鷹教室／四ツ谷教室（東京）
※育児休業中
WEBSITE

中桐 昌子
調布教室／ベルンの森クリニック教室／
ベリエの丘クリニック教室（東京）
2020年よりマドレボニータ理事・共同代表
WEBSITE

岡田 令子
横浜教室／大船教室（神奈川）
WEBSITE

山本 裕子
岐阜教室（長期休講中）／岩砂マタニティ教
室（岐阜）／桑名教室（三重）
2020年よりマドレボニータ理事・共同代表
WEBSITE



山城 侑子
浜松教室（静岡）
BLOG

長野 奈美
平針教室（愛知）／オンライン教室
2020年よりマドレボニータ理事
BLOG

今川 涼子
一宮・篭屋教室（現在休講中）（愛知）
BLOG

中川 奈津子
大阪十三教室（大阪）／さくら夙川教室（兵庫）
／オンライン教室（マタニティ）
BLOG

高村 由美子
ボールエクササイズ指導士
※休業中
WEBSITE

杉村 美穂
ボールエクササイズ指導士
浜松・磐田教室（静岡）
WEBSITE

小山田由貴
産後セルフケア指導士
石川県／オンラインで活動中
LINKS

支えてくださった企業・団体の皆さま

マドレボニータの活動は個人・企業・団体さまからのご寄付・助成により支えられております。
日頃からのご支援に心より御礼を申し上げます。（五十音順・敬称略）

認定NPO法人アカツキ「AKBNファンド」	朝活バランスボール部	医療法人社団友愛会 岩砂病院・岩砂マタニティ	MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ	公益信託 オラクル有志の会 ボランティア基金
法人会員 医療法人社団SJS 金子レディースクリニック	Google合同会社	プログラム提供 一般社団法人KILTA	株式会社 スパークエンターテイメント	
全国マドレ式 対話の場づくり研究所	相互保育de弾もうの会（週末朝活ジャズダンス）	ソフトバンクつながる募金	日本財団	
日本労働組合総連合会「愛のカンパ」	法人会員 認定NPO法人フローレンス	法人会員 株式会社ベルタ	みてね基金	
法人会員 株式会社メドイット	株式会社メルカリ	lululemon	医療法人けんゆう会 レジーナクリニック	

寄付・決済プラットフォームによるご支援

株式会社STYZ Syncable	株式会社SOLIO	株式会社バリューブックス チャリボン	PAY.JP	Benevity

メディア掲載実績

新聞：2件／ラジオ：2件／タウン誌：1件／WEB・4件

会計報告

新体制2年目となった今年度は、収益費用とも予算比98%と概ね予算通り推移いたしました。2021年度は、前年度から継続したみてね基金、日本財団、オラクル有志の会ボランティア基金、連合愛のカンパ等の寄付・助成金により受講料補助や調査研究を実施することができました。また、新型コロナウイルス感染拡大対応の補助金である月次支援金、事業復活支援金の計140万円をその他収益として計上しております。また今年度をもってソフトウェア減価償却が完了しました。

活動計算書 （2021年10月1日～2022年9月30日）

一般正味財産増減の部		
経常収益		
1. 受取会費		1,733,500
2. 受取寄付金		2,883,326
3. 受取助成金		9,350,486
4. 事業収益		4,942,118
5. その他収益		1,458,413
経常収益計		20,367,843
経常費用		
1. 事業費	人件費	1,360,875
	その他費用	15,405,990
1. 管理費	人件費	1,680,700
	その他費用	1,257,648
経常費用計		19,705,213
税引後当期一般正味財産増減額		**627,630**
指定正味財産増減の部		
Ⅰ　受取寄付金等（指定正味）		0
Ⅱ　一般正味財産への振替額		8,060,486
当期指定正味財産増減額		△8,060,486
次期繰越正味財産額		**16,056,019**

貸借対照表 （2022年9月30日現在）

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
普通預金	17,295,528	未払金	1,260,037
貯蔵品	339,285	前受金	930,883
未収金	420,156	預り金	31,752
前払費用	96,019		
流動資産合計	18,150,988	流動負債合計	2,222,672
固定資産		固定負債	
商標権	127,703	固定負債合計	0
固定資産合計	127,703	**正味財産の部**	
		1. 指定正味財産	
		当期指定正味財産増減額	△8,060,486
		2. 一般正味財産	
		前期繰越正味財産	15,428,389
		当期正味財産増減額	627,630
		正味財産合計	16,056,019
資産合計	**18,278,691**	**負債及び正味財産合計**	**18,278,691**

監査報告書

2022年11月17日

特定非営利活動法人　マドレボニータ
理事長（共同代表）　中桐　昌子　様
理事長（共同代表）　山本　裕子　様

監事　岡本　拓也
永田　恵美

私たちは、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人マドレボニータの2021年度(2021年10月1日から2022年9月30日まで)の事業報告書及び計算書類（財産目録、貸借対照表及び収支計算書)について監査を行った。

私たちは、理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては会合を持ち、必要と認める場合には質問を行った。また、経営の状況及び財産の状況に関する監査に当たっては、帳簿や証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、法人の業務は法令、定款及び2021年度の事業計画に基づき適正に執行され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められた。

また、2020、2021年度の監査報告書において付記したマドレボニータのトランジッションについては、新理事による新たな体制下での事業継続は一定の軌道に乗り、事業面では対面教室の本格的な再開(オンラインも一部継続)、「産後の身体とコロナ禍のパートナーシップ」に関する調査研究の実施と冊子印刷・全国の自治体への配布、ガバナンス・コンプライアンスに関しては、ガバナンス認証取得やハラスメント対応窓口の設置、これまでの取り組みに関する他組織への共有等、先進的な取り組みを継続している。経営体制強化に際しても、外部からの視点を取り入れるべく新たなアドバイザーを追加して、アドバイザリーボードとの定期会合を設置している。11月の理事改選では現在の体制及び事業方針が維持されることが予定されており、法人の業務が適切に執行される自律的な状況に至ったと考える。

よって、私たちは、上記の事業報告書及び計算書類が、特定非営利活動法人マドレボニータの2022年9月30日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況及び同日現在の財産の状況を適正に表示しているものと認める。

以上

ご支援のお願い

ここまでお読みいただき、ありがとうございました。
新年度も「すべての家族に産後ケア」の実現に向け活動を展開してまいります。
皆さまからいただいたご寄付はインストラクター養成や、
産後ケアバトン制度の運営など、産後ケアを広く普及するために使わせていただきます。
ぜひ、活動へのご支援をお願いいたします。

毎月のご寄付

● マドレ応援団（マンスリーサポーター）

・クレジットカードで毎月一定額をご寄付いただく仕組みです。
・毎月のご寄付額は1,000円／2,000円／3,000円／5,000円／10,000円からお選びいただけます。
・会報、年次報告書や毎月のメールレター、限定Facebookグループで活動情報を随時ご報告します。
・金額のご変更や退会はいつでも可能です。

お申込みはこちら
https://www.madrebonita.com/donate-monthly

いつでも、おいくらからでも

●銀行振込でのご寄付

ゆうちょ銀行　10190　37231
(他行からのお振込は　〇一八 店（ゼロイチハチ店）普通　0003723)
口座名義　特定非営利活動法人マドレボニータ

三井住友銀行　永福町支店　普通　7231754
口座名義　特定非営利活動法人マドレボニータ

●クレジットカードでのご寄付・古本でのご寄付（チャリボン）

お申込みはこちら
https://www.madrebonita.com/donate

マドレボニータは認定NPO法人です

寄付された方は、確定申告により寄付金控除等の税制優遇を受けることができます。
※対象：単発寄付、継続寄付（マドレ応援団）、賛助会員費
・所得税減税のほか、自治体によって住民税が減税となる場合もあり最大50%の減税となります。
・相続財産寄付・遺贈寄付は非課税となります。
・法人の場合、法人税を軽減させる「寄付金損金算入枠」が3-5倍になります。
　また、一般枠と特別枠の合計額まで損金にできます。

ご不明点やご質問はマドレボニータ事務局（info@madrebonita.com）までお問い合わせください。

Madre Bonita

発行人　**特定非営利活動法人マドレボニータ**
住　所　〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1－15－9
シルク恵比寿403
公式サイト　http://www.madrebonita.com
メール　info@madrebonita.com（事務局）

SNSでも情報発信中！

Facebook　Instagram　Twitter